



平成 30 年 1 月 31 日

## 兵庫県内経済情勢報告 (平成 30 年 1 月判断)

### 1. 総論

#### 【総括判断】「県内経済は、回復しつつある」

項目	前回 (29 年 10 月判断)	今回 (30 年 1 月判断)	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	回復しつつある	

(注) 30 年 1 月判断は、前回 29 年 10 月判断以降、30 年 1 月に入ってからからの足下の状況までを含めた期間で判断している。

#### (判断の要点)

個人消費は持ち直しているほか、生産活動は緩やかに回復しつつあり、雇用情勢は改善しているなど、全体としては回復しつつある。

#### 【各項目の判断】

項目	前回 (29 年 10 月判断)	今回 (30 年 1 月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	持ち直している	
生産活動	持ち直している	緩やかに回復しつつある	
雇用情勢	改善している	改善している	
設備投資	29 年度通期は前年度を下回る計画となっている	29 年度通期は前年度を上回る計画となっている	
企業収益	29 年度通期は増益見通しとなっている	29 年度通期は増益見込みとなっている	

#### 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策効果を背景に、回復の動きが強まっていくことが期待される。ただし、企業活動などに影響を与える国内外需要の動向、海外経済の不確実性、為替の影響等に留意する必要がある。

## 2. 各論

### 【主な項目】

#### ■ 個人消費 「持ち直している」

百貨店・スーパーは、週末の台風到来などの影響はあったものの、気温の低下により冬物衣料が好調であったことなどから、販売額は底堅く推移。ショッピングセンターでも、冬物衣料が好調であったことなどから、販売額は前年を上回っている。

コンビニエンスストアは、総菜やカウンター商品、電子たばこが引き続き好調であり、販売額は前年を上回っている。

ドラッグストアは、化粧品や日用品が好調であり、販売額は前年を上回っている。

家電大型専門店は、スマートフォンの新機種や高付加価値の大型白物家電が好調であり、販売額は前年を上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、普通車や軽自動車は前年を上回っているものの、小型車が前年を下回っている。

このように、個人消費は堅調な状況が続いており、全体として持ち直している。

#### (主なヒアリング結果)

- 10月は台風などの天候不順により来店客数が減少した。11月以降は、農産物の価格が上昇したものの、気温の低下により鍋商材や冬物衣料、カイロといった日用品などが好調であるほか、正月用食材が好調であった。(スーパー・大企業)
- 11月の気温低下により冬物コートの買い替えが広がるなど、重衣料が好調であった。年始では、食品や低価格帯の紳士雑貨、食器や鍋などのリビング関連の福袋が好調であった。(百貨店・大企業)
- スマートフォンの普及などで高品質の目薬が売れているほか、植物性由来の化粧品や日用品が好調であった。また、インバウンド向けでは高価格のスキンケア化粧品などが好調であった。(ドラッグストア・中小企業)
- 株高や賃上げなどにより消費マインドは良くなっている。ラグジュアリーブランドが好調であるなど、主力の衣料品が堅調であったほか、健康志向によりスポーツ・アウトドア関連の商品も好調であった。(ショッピングセンター・中堅企業)
- 神戸ルミナリエが好況であったほか、神戸開港150年関連や世界最大のクリスマスツリーなどのイベントの効果で観光客が増加したなどから、国内客、インバウンドともに好調であった。(宿泊業・中小企業)

#### ■ 生産活動 「緩やかに回復しつつある」

鉱工業指数(生産)でみると、旅客車などが堅調で輸送機械が上昇しているほか、自動車関連や半導体関連、建築資材などの需要が増えていることから、生産用機械や化学、鉄鋼が上昇しているなど、生産活動は緩やかに回復しつつある。

#### (主なヒアリング結果)

- 鉄道車両分野では他社との価格競争が激しいが、アジア向けの受注を確保できているなど堅調に推移している。また、産業用ロボットは中国などの自動車メーカー向けに好調であった。(輸送用機械・大企業)
- 国内外の自動車市場や中国のスマホ市場が活況であり、これらの製造メーカー向けに工作機械の需要が高いほか、アジアでは経済成長により生活水準が高まり、生活用製品メーカー向けに工作機械も好調であった。(生産用機械・大企業)
- 世界的にIoTやAI、自動運転車などの製造・開発が活況で、データの大容量化に伴い半導体メモリの製造機械向けに金属加工の需要が増加している。(金属加工・大企業)
- 東京五輪関係の需要等により建築用資材が好調であるほか、自動車用タイヤ向け資材も好調。また、インターネット通販市場の成長により、段ボール向け資材の需要も増加している。(化学・大企業)
- 自動車向けや産業用ロボット向けに国内外ともに需要が高いほか、中国のインフラ市場が回復していることなどから建設機械向けも好調であった。(鉄鋼・大企業)

## ■ **雇用情勢** 「改善している」

有効求人倍率は1.32倍（29年11月）と、43年ぶりの高水準で推移しているほか、新規求人数、有効求人数はともに増加傾向にあるなど、雇用情勢は改善している。なお、法人企業景気予測調査（29年10～12月期調査）をみると、従業員数判断BSIは、「不足気味」超となっている。

### （主なヒアリング結果）

- 雇用情勢は改善が続いており、特に自動車関連と食料品製造の求人数が大きく増加するなど製造業が増加した。自動車関連では金属や電気機械など様々な関連業種で求人が多くなっている。人手不足のため、年齢制限を撤廃して募集する企業が増えており、特に運輸で高齢者の採用が多い。正社員は、有効求人倍率が0.89倍と上昇が続いている。（公的機関）
- 求職側では、すぐにでも就職したい人は減少傾向にあり、雇用条件など働く環境をじっくりみながらより高い満足が得られる企業に就職したいと考えている人が増えている。求人側では、特にエンジニアや建築施工管理技士などの求人が多い。大手企業も人手の確保に苦勞しており、求人条件は日々緩和され、間口が広がっている。（職業紹介・中堅企業）
- 薬剤師や登録販売者について、同業他社と取り合いになっているほか、家電量販店が医薬品部門に力を入れるようになり、人手の確保は厳しい状況となっている。（ドラッグストア・中小企業）
- 勤務体系の多様化により午前中のみ勤務といった短時間勤務のパート職員が増加し、必要人数が増えているが、人を集めるのは難しい状況。人手確保のため、企業内保育所を設置しているほか、パート職員を短時間勤務のまま正社員化する取組みを始める。（食料品・大企業）

## ■ **設備投資** 「29年度通期は前年度を上回る計画となっている」（全産業）「法人企業景気予測調査」29年10～12月期

法人企業景気予測調査（29年10～12月期調査）でみると、29年度通期の設備投資は、製造業では輸送用機械などが前年度を上回り、非製造業では運輸、郵便などが前年度を上回ることから、全産業では前年度を上回る計画となっている。

## ■ **企業収益** 「29年度通期は増益見込みとなっている」（全産業）「法人企業景気予測調査」29年10～12月期

法人企業景気予測調査（29年10～12月期調査）でみると、29年度通期の経常利益は、製造業では鉄鋼などが増益見込みとなっており、非製造業では運輸、郵便などが増益見込みとなっていることから、全産業では増益見込みとなっている。

### 【その他の項目】

- **住宅建設** 新設住宅着工戸数でみると、前年を下回っている。
- **公共事業** 前払金保証請負金額でみると、前年を下回っている。
- **輸 出** 神戸港の通関実績（円ベース）でみると、輸出は、米国向けにリチウムイオン電池や、中国向けに半導体等製造装置などが増加していることから、前年を上回っている。なお、輸入は、前年を上回っている。
- **企業金融** 法人企業景気予測調査（29年10～12月期調査）でみると、資金繰り判断BSIは「改善」と「悪化」が均衡している。また、金融機関の融資態度判断BSIは「緩やか」超となっている。
- **企業倒産** 企業倒産件数を3か月平均でみると、前年比横ばいとなっている。
- **企業の景況感** 法人企業景気予測調査（29年10～12月期調査）の景況判断BSIでみると、現状判断は「上昇」超となっている。先行きについては、30年1～3月期、30年4～6月期のいずれも、「上昇」超で推移する見通しとなっている。

（注）本文中、大企業とは資本金10億円以上の企業を、中堅企業とは資本金1億円以上10億円未満の企業を、中小企業とは資本金1億円未満の企業をいう。